

## 必要な分だけ生ごみ処理

「毎日出る生ごみを必ず発酵肥料にしなければいけない！」といった発想をやめて、おいしい野菜、きれいな花を育てるために、厳選した生ごみを、必要なときに、必要な分だけ手軽に生ごみ発酵肥料にする方法をご紹介します。

**用意する物** 密閉容器（プランターの4分の1～3分の1の容量）、EMボカシ（米ヌカでも可）

### 手順

- ①プランターの栽培が終わり、生ごみ発酵肥料が必要になったら容器を用意します。
- ②容器の底に米ぬかまたはEMボカシを厚めに入れます。余剰水分を吸収してくれます。
- ③おいしい野菜、きれいな花が育つための土の栄養になりそうな、おいしそうできれいな生ごみを厳選して、できるだけ細かく切って入れます。**写真1**
- ④EMボカシを多めに振りかけ、入れた生ごみと混ぜ合わせます。ご家庭で精米されている方は、時折米ぬかをどっさり入れてもいいでしょう（このときは混ぜなくても大丈夫です）。**写真2～5**
- ⑤容器の蓋をして密閉し、満杯になるまで（2～3日）繰り返します。
- ⑥満杯になったらすぐにプランターの土と混ぜ、EM 100倍希釈液または米のとぎ汁EM発酵液を表面が湿る程度にかけ、ビニールで覆って1ヶ月以上発酵させます。発酵肥料が必要ないときは無理に作らなくてもよく、家庭ごみとして出しましょう。**写真6～9**



材料となる生ごみに傷んだもの、腐りかけのものを入れないことがコツです。

家庭菜園ひろば

おしえて！あなたのワザとアイデア



# プランターで不起耕栽培

自然農法の究極は不起耕栽培と教えていただきました。そこでプランター栽培でも不耕起栽培が実践できないものかと思い、挑戦し、成功していますのでご紹介します。

**手順**（30 Lの容器を使用しています）

①前作終了後、地上部の茎を根本で切り、地下部の根はその

まま残しておきます。土をかき混ぜる事はしません（1回栽培すると土の容積は約15%目減りします）。**写真1・2**

②貝化石 50 g 程度を表面にむらなく施します。

③EMボカシⅡ型 200 g 程度を表面にむらなく施します。**写真3**

（EMボカシは仕込んでから2年位経過したものを使用しています。古いボカシほど発酵分解が進んでおり、原材料がアミノ酸化しているので、根からの吸収がはやく、病虫害の誘発が少ないように感じています）

④完熟堆肥（生薬草堆肥）を土の表面に2～3cmの厚さに施します（完熟した腐葉土でもよい）。

⑤上記③④⑤を施した上からEM活性液（100～200倍）を下の水穴からしみ出るまでたっぷりかけます。

⑥黒ビニールでプランター上部を覆って紐で縛り、軒下の暖かい場所で保管すると表面に白い菌糸が発生します。秋・冬野菜収穫後であれば、11～12月に作業をして翌年4～5月頃に夏野菜栽培に使い、夏野菜終了後（7月頃）であれば最低2ヶ月間発酵させ、9月中旬には使えるようになります。

**写真4・5**

⑦黒ビニールを剥がして、白い菌糸が消えていれば栽培可能です。**写真6**



いぬい たけし  
**乾 武司さん**

（奈良県奈良市）

自然農法歴 16年

プランター栽培歴 6年



## コツ・アイデア・ワザ 大募集！

このコーナーでは、菜園やプランター栽培をされている方々から、おいしい野菜を育てるコツ、たくさん穫るコツ、病虫害対策、簡単作業など、家庭菜園から生まれる様々なワザやアイデアを募集しています。技術普及課（0569-89-7643）までご一報ください。